

H28.8.8

平成28年度第1回

IR実務担当者連絡会

於：立命館大学

学生調査の際に学生番号を 取得することに関する小考察

茨城大学 全学教育機構

畹田 敏行

はじめに

- 茨城大学では、平成28年度の全学教育機構総合教育企画部門の設置に前後して、学生調査体系の再整備を行っている。
- 各種学生調査において学生番号（学籍番号）を取得する際の課題と解決方法に関する話題と論点を提供し、参加者と議論したい。

茨城大学で実施している学生調査³

	主な項目	頻度	回収率	学籍番号記入率
授業アンケート	理解度、満足度、熱意、学習時間等	学期ごと	学部による	記入しない
卒業時調査	DP達成度、満足度等	毎年	79.5%	92.5%
学生生活実態調査	DP達成度、満足度、生活状況、学修状況等	毎年	約70%	99.7%

学籍番号収集のメリット/デメリット ⁴

- (メリット) 成績データや奨学金・授業料免除の申請/受給状況、住所データ、学部・学科・コースデータ、性別などのデータを学生に記入してもらわなくても把握可能。
- (デメリット) いろいろな意味で本音が書きづらい。
- (デメリット) データの取り扱いについてはかなり慎重に取り扱わざるを得ない。
- 記名式だからといって、正確な回答をしてくれるかどうかの保証はない。

3つのタイプ

項目	有効性の方向性
1 : 学籍番号を収集し、各種分析に活用したほうがよい情報	組織的改善
2 : 学籍番号を収集し、IR/IEオフィスよりも担任が把握したほうがよい情報	学生個人の改善（履修指導、生活指導）
3 : 学籍番号は収集せず、「本音」に近い部分を回答してもらいたい情報	組織的改善

タイプ1：むしろ担任に

- 具体的な抱えた「悩み」が多い場合
- 具体的な抱えた「悩み」の自由記述が深刻
- 就寝時間と睡眠時間と成績
- 深夜のアルバイトと成績
- 朝食と成績

- 学生生活上の悩みや乱れに起因する学業不振や、学業不振が予見される状況を検出した場合、担任等が早期対応すべき？

タイプ1：むしろ担任に

問18 昨年1年間の悩みについて、カテゴリ毎にもっとも当てはまる部分に○を記入してください。

* 友人関係以外の対人トラブルとってください。

	← ほとんど悩まなかった 大きな悩みがある →				
学業	1	2	3	4	5
交友関係	1	2	3	4	5
社会生活上のトラブル*	1	2	3	4	5
経済的な問題	1	2	3	4	5
心身の健康について	1	2	3	4	5
将来に関すること	1	2	3	4	5
これら以外の学生生活一般	1	2	3	4	5

4 や 5 ばかりなら担任に通報？

メモ

タイプ2：IR/IEで分析

- 学部FDで報告したり、学科FDMでの議論用に提供。
- 履修指導や生活指導の基礎資料を作成し、精度の高い学生の将来予測を行いたい。
(深夜のバイトが多いと、学業不振につながりやすい等)
- 満足度や理解度、学習時間、DPの各要素の修得状況などは、ある種のKPIとして計画進行上、モニタリングを行わなくてはならない。

タイプ3：本音を聞きたい

- 自由記述に記名式に対する反発意見がある（ただし、学籍番号は記入してくれる）。
- デリケートな悩みに関するものは無記名がよい??

解決の方向性

- 学生に担任に伝えることを事前に告知
- もしくは、学生生活調書のような形で別に聴取か？
- その後、学生に事前説明した上で、個人が特定できない形で組織的傾向を把握するのに使う、というような流れか。

学生調査を進めるにあたって

- 学生との信頼関係の醸成が、調査の精度向上には必要なのではないか。
- アンケートを回答したら、何かが改善される実感を欲している可能性は高い。
- 少なくとも、内容を速やかに学生にも分かるところに開示するべき。
- 学生との約束は必ず守る。